7年10月15日 第444号 大瀬川活性化会議 発行 編集 「みつくら」編集委員会 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2 大瀬川振興センター 電話45-6472

"お~い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!"

幻燈紙芝居を2ヶ所で披露

民話クラブは幻燈紙芝居「やまなし」の公演を8月に2ケ 所で行った。8月26日には花巻市生涯学習課からの依頼 で、まなび学園のポラン学部20名を対象にしたもので、菅 も手伝い) が関わった。

紙芝居の後の1時間は、「大瀬川とやまなし」について話してはなかったと菅原さんは話している。 題を深めた。宮沢賢治が、何処のやまなしをモデルにしたの かは研究者でも分かっていない。しかし、実際に賢治がやま なしを見たのは大瀬川の金矢にあるやまなし(数回やまなし の下を通っている)と大地渡竈家のやまなしである。大地渡 **竈家のやまなしは、賢治が板垣亮一宅に来た様子を「夏」と** いう腎治詩に書いていて、その中に「厩の上には梨の木が」 というのがある。この梨の木はやまなしのことで、大地渡竈 家の直ぐ北側の薬師堂川のやまなしを書いたもの。さらに、 薬師堂川から這い上がった沢蟹を菅原栄一さんと、菅原洋 さんが捕らえてやまなしと沢蟹の存在を裏付けている。菅原 栄一さんの捕らえた沢蟹は中屋重正賢治研究家に、また菅原 洋二さんが捕らえた沢蟹は、第9回賢治やまなし祭に田中成 行岩手大学准教授から披露されている。このようなことか い関係があることを話した。

次に2回目の幻燈紙芝居は8月29日に宮沢賢治記念館か ら頼まれたもので、宮野目小学校6年生65人を対象にした ものであった。話し手と絵の出し入れは石鳥谷図書館の読み 聞かせボランティア「おはなしぽけっと」の関俊子さんと鎌 田喜代子さんの二人が公演した。その後の講話は板垣公さん は興味深そうに見入っていた。

態が電柱に登り感電死

少し前の話になるが6月末に夕方5時半ごろ大瀬川の一部 で停電が起き、2~3分で複旧した。後日、熊が道路で死ん でいると石鳥谷総合支所に連絡が入った。熊が死んでいた場

所はタロシ滝の駐車場の坂を西に上がり、葛丸川に架かる小桧 山橋を100mほどダム側に行った急カーブの所だった。現地を|連合会の「奉仕の日」に合わせて行っているもので、週末に 確認すると木々に囲まれたコンクリート柱に斜めに木柱とコン クリート柱の支えが在る。態は、木の柱を登り6千ボルトの電 線に触れて感電死したものと思われる。石鳥谷総合支所の地域 振興課が死んだ熊を車に乗せて処分したと話していた。この様 な事例は熊の事故死扱いになるという。

一方、イノシシはどうかというと、7月末に県で行った恒久 電気柵設置場所のトライアルカメラに、親豚ほどの大きさのイ ノシシ1頭と子鹿1頭が記録された写真を熊谷俊彦さんに見せ てもらった。ほかにも4月から8月までで、大瀬川地内でもく くり 罠に掛かって駆除されたイノシシが 7 頭ほどあったと聞い ている。

夏の日照りで水上沢が涸れる

7月から8月にかけての日照りは、山王海ダムや葛丸ダムの 放流制限により番水が実施された。この期間の花巻空港測候所 の雨量は平年の10% 程であった。この状況で、7区菅原教雄 運転者の協力を頂き、先頭と後尾には13分団の消防車がつ 原慶子さん(読み手)と菅原富男さん、菅原得之さん(何れ」さん宅北側にある水上沢の水が涸れてしまった。かつて大瀬川 山林火災の後も水量が少なくなったことはあったが、これほど

> 9月10日にその沢を見に行ったが、8月末に降雨があった にもかかわらず、水はチョロチョロと流れる程度の流量であっ た。ところがその目照りも夢のようで、9月末から稲刈りに入 ったとたん、10月にかけて雨が降り、天の恵みも皮肉なもの である。

2回目の早朝一斉草刈りに68名

葛丸の農村環境を守る会の第2回早朝一斉草刈りは9月6日 に68名が参加して4ヶ所に分かれて行われた。7区は20名 で市道黒森開拓線の草刈りを、八区1・2班と紫波町の方々1 7名は薬師堂川上流、八区3・4班と九区の方々18名は薬師 堂川下流、稲豊と好地の方々13名は上新田堰の草刈りをし た。同会では、日当の対象外としてこの早朝一斉草刈りを2 ら、「やまなしの原風暑は大瀬川と思われる」と大瀬川と深|回、農村公園草刈りを3回、農村公園の選定を1回、ゴミ拾い (区長と共同)を3回実施している。

7回目の草刈り作業を行う

下大瀬川美土里の会(熊谷俊彦代表)は、9月6日に7回目 となる草刈り作業を実施した。今回は1回目と同じく市道の草 刈り作業のため、9区の構成員が対象で37名が参加した。そ がスクリーンに映した映像を菅原得之さんが説明し、児童達 れぞれに市道を終えてからは、薬師堂川の北側の平場の草刈り を行って終了した。この場所は、10月18日に路肩の草刈り 作業を予定している。

今年も敬老祭前に環境整備

大瀬川中央長寿会(板垣正博会長)は9月8日に会員9名が 参加して大瀬川振興センター廻りの環境整備を行った。

これは毎年9月に、全国的に行われている全国老人クラブ 行われる敬老祭に来た方々が気持ちよく歩ける様にとかなり 以前から行っている活動である。

今回は、剪定した小枝や草が集めやすいように事前にブル ーシートを敷いて作業した。会員達はそれぞれに持ち場が暗 黙で決まっており、電動バリカンや剪定バサミと草取り鎌を 使いさぎょうは1時間ほどで終了した。集まった小枝や草は ゴミ袋に6袋あった。ブルーシートを敷く方法は大変有効で 作業時間の短縮につながったが、この目も真夏目で汗だくに なり、水分補給のお茶が美味しかった。

山祇神社と天満宮で例大祭

前日は雨降りで、例大祭の神輿渡御は雨の中かと思ってい た9月12日は、朝から好天となり、暑さもなく秋の気候の 開催となった。山祗神社では9時から神幸祭が行われてご神 体を神輿に移し、交通安全協会大瀬川分会から6台の車両と いて、交通整理を行いながら天満宮に向けて10時に神輿渡 □御の出発となった。途中では、氏子の方々から「初穂料」を 奉納して頂きながら11時半には天満宮に到着した。直町宮 司が祝詞を奉天した後、昼食と休憩をとり13時には再び山 祇神社に向けて別な道を渡御し、山祇神社に2時半に到着し てご神体を神殿に移した。その後の例大祭では花巻神社より 献幣使が出席の中で直町宮司による祝詞を奉天した。今年も 来賓は招かず、総代以上の役員32名が参列して直会を行わ ない形式をとった。また、令和元年以来となる参加者の写真 を撮影した。

黒森大権現例大祭を斎行

9月14日、黒森大権現の令和7年例大祭が厳かに斎行さ れた。宮司、畠山勝榮別当、来賓14名、一般氏子19名の 計35名が参加し、黒森大権現による恵みと五穀豊穣に感謝 した。黒森大権現は地元では「権現様(ごんげんさま)」と も呼ばれており、過去に獅子頭が盗難に漕ったが地元の方々 の浄財により茨城県の古物商から買い戻したことがあるなど 地域にはなくてはならない神様であり、地域の守り神として 信仰されている。

創建時期や由緒についての確かな記録はないものの、東北 縱貫自動車道関係埋蔵文化財調查報告書(昭和56年3月: |岩手県教育委員会) において、「大瀬川館と瀬川氏」の項に 「また、西方の黒森山には畠山某の勧進となる黒森権現が奉 られ、現在秩父17番観音に列している。(大瀬川館の)南 東にある黒森山神社はその拝殿である。」と記されており、 古くからこの地域に鎮座していたことが推察される。

例大祭の締めくくりとして直会が行われ、参加者は権現様 に供えられた神饌や御神酒を分け合っていただいた。現在、 直会が行われているのは大瀬川では黒森神社のみである。

第444号 7年10月15日 大瀬川活性化会議 発行 「みつくら」編集委員会 編集 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2 大瀬川振興センター 電話45-6472

"お~い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!"

イノシシ被害で収穫皆無の田んぼも

年々大瀬川各地の猪被害が拡大し続けている。今年は特に 収穫皆無となる水田が発生している。

5日にNHK盛岡放送局の「おばんです岩手」では、熊谷俊彦 っていて、今回設置の170mから、さらに延長して被害を くい止めたいものです」と語っていたが、まさに対応が急が↓のカホンも演奏会で活躍した。 れる。

板垣崇さんが地元で講演会

開会に「今回の研修会は、大瀬川出身で数多く講演会の講師 した。今日は板垣さんから人と人との触れ合いについてのおは通所者が作成した織り製品が販売されていた。 お話を聞き下さい」と挨拶し、「しゃかいのくすり研究所」 代表の板垣崇さんが「私の半生」として講演を行った。

板垣さんは東京学芸大学を卒業した後に、岩手大学も卒業 いて話された。

であっても、普通の人として生き甲斐のある人生を送れるよりであるが参加したほかの方々もみな感謝していた。 う手助けをした」という話に、聴講者は熱心に耳を傾けてい

に大瀬川公民館主催の「ふるさと講演会」、2回目は令和元 | げます」と主催者挨拶があった。 年に大瀬川活性化会議『福祉の集い』で小林覚さんと板垣崇 さんの「いのちの授業」であった。

術館の顧問の傍ら、「しゃかいのくすり研究所」の代表とし て、人間の本質や、人と人との触れ合いの真髄などをテーマ に、全国を飛び回って講演活動をしている。

第7回ブルリ祭が開催される

10月4日に生活介護施設・ブルリの杜(能谷和彦施設長) は「第7回ブルリ祭」を大瀬川振興センターとブルリの杜で開 催した。

第1部は振興センターで「みんなで楽しもう!ブルリの杜音 楽会」と題して通所者やスタッフや親の会50名が、手作りの 楽器で参加した。開会にあたり熊谷和彦施設長が「岩手県自閉 症協会の長年の念願であった介護施設を開設して7年になりま す。これまでの運営に多大な協力頂き大変有難う御座います」 と挨拶した。

音楽会の最初は賛助出演のヴァイオリン奏者高山仁志さん、 エレクートン奏者渡邊絵里さん、カホン奏者齊藤穂乃香さんの 木ノ宮橋周辺の被害が大きく、ほとんどの稲が倒され餅米が「リードにより全員で葉加瀬太郎の「情熱大陸」を手作りのマラ カスや木琴で演奏した。続いて「みんなで歌おう」の演奏で 当紙8月号で「葛丸川恒久電気牧柵設置講習会」の様子を□は、「世界に一つだけの花」など3曲を歌った。最後は参加者 掲載したが、各局のテレビ放送にも取り上げられた。7月2 全員でマラカスや体を動かしながら「情熱大陸」を合奏し会場 がひとつになった。今回のブルリ祭には、仙台に本社を置くリ 下大瀬川美土里の会代表が「年々、猪による被害が深刻にな「バーランズエンジニアリング(株)から亀山さんと川瀬さん、 津田さんの3名の方が来所され、昨年同社から寄贈された5台

第2部は施設や活動の紹介で会場のブルリの杜に戻った。は じめに大瀬川地区の4名を含む職員の紹介があり、一人ひとり が一言ずつ挨拶したあと昼食タイム入った。職員が心を込めて 第八区農家組合は9月20日に大瀬川振興センターで令和┃作った3種類の弁当と豚汁・お団子を囲んでみんなで昼食をと 7年度研修会を開催し49名が出席した。板垣正博組合長は ○ った。施設内では、活動内容が写真で紹介されていたり、通所 者が使用しているそれぞれのスペースを見ることができ、個性 として活躍している上野々家の板垣崇さんに来ていただきま にあった活動ができるよう配慮が感じられた。駐車ガレージで

敬老祭に参加して

10月1日号の「みつくら」に詳しい写真でお知らせした するなど、その経歴に至った心境や、ルンビニー美術館の講┃が、写真だけでは分からない部分を今号で紹介したい。まず最 師で得た障がい者との触れ合いで感じた「人間の原点」につ「初にお知らせしたいのは、華やかな敬老祭をするまでに、実行 委員会(熊谷秀夫委員長)24名の皆さんに大変お世話になっ 講演の中で「自分は講師の立場ではあったが、教えるより たことである。数回の企画会議から、看板や小物などの備品の も、その方々の才能を見つけて広く社会に紹介し、障がい者 間達、会場の準備、またその後の片付けなど、筆者は招かれた

当日の式典で熊谷秀夫実行委員長からは「本日、お招きの対 象者156名の内、出席者は57名ですが、皆様にはこれまで 大瀬川での講演会は、今回で3回目、1回目は平成16年 の地域発展に尽くしました御労苦に対しまして深く感謝申し上

来賓の上田市長(代理総合支所高橋誠市民サービス課長)は 「皆様にはお健やかに敬老の日を迎えられたことに心よりお慶 板垣さんは現在、盛岡市山岸にお住まいで、ルンビニー美 び申し上げます。現在、花巻市で75歳以上の方は19、69 8名、また100歳以上の方は154名で最高齢者は109歳

の方です。戦後の混乱した時代を克服し、これまで築き上げ て来られました皆様に心から敬意を表します」と祝辞を述べ た。佐々木順一県議は「今年は昭和100年、終戦から80 年という節目に、これまで社会に貢献されました皆様に敬意 を表します。渋沢栄一の 『四十、五十は洟垂れ(はなたれ) 小僧。六十、七十は働き盛り。 九十になって迎えが来たら |百まで待てと追い返せ 』とあるように、皆さんには益々お元 気であられますように」との祝辞であった。

喜寿、米寿、百寿を代表して辻村勝俊さんは「身に余るお 祝いのお言葉を戴きありがとうございました。思い返せば、 小学校の頃は食べ物が無くて、校庭にソバを植えたりしたも のでした。これからも、皆様方のお世話になりながら元気で 過ごしたいと思っております。本日はお招きいただきまして ありがとう御座いました」と謝辞を述べた。

懇親を深めている間に、大瀬川神楽保存会の権現舞や熊谷 秀夫さん夫妻の踊りなどが賑やかに繰り広げられた。

計 報

○太郎ど竈家の菅原かよ子さんは、9月1日に88歳で亡く なられました。菅原さんは紫波の片寄生まれで長年「はたけ やま衣料店」に勤められました。妹の熊谷レイ子さんと孫の 崇将さんに伺ったところ、趣味は裁縫で手提鞄や巾着袋を作 っていたそうです。この夏の猛暑の中、草取りを毎日行って いたのが体にこたえて亡くなる原因になったのではないかと 語っていました。

最近では、菅原敬子さんに誘われてくずまる健康クラブの 「元気でまっせ体操」に毎週通って、皆で語り合っていたの を思い出します。

平成21年大瀬川活性化会議みつくら編集委員会委員、平 成24年大瀬川活性化会議地域福祉推進委員会委員、平成2 7年大瀬川高齢者クラブ理事などされ、多くの方々に親しま れた菅原さんに謹んでご冥福を申し上げます。

○ 畠松商店(通称煎餅屋)の畠山靖さんが9月21日に79 歳で亡くなられました。畠山さんは岩泉町のお生まれで、盛 岡市の盛岡平和タクシー会社に運転手から管理職まで勤めま した。畠山さんはこの間にも地元では昭和61年に九区好友 会で会長を務め、秋祭りで九区内を会員達と一緒に神輿担ぎ を楽しく歩いた事や「タケノコ取り」では前日に目的地の駐 車場で会員達と宴会を行い、朝早くに藪の中を漕いで収穫し たのを思い出します。

また、平成23年の東日本大震災で天神家(本家)の家族 が石巻で震災に遭遇され、やっとの事で連絡がとれたのが畠 山さんの携帯で避難場所のみを聞き、ガソリン残量や道路状 | 況もわからないままに出発。迷いながらもその日の内に連れ て帰った事はさすがに仕事がらの出来事と思い出されます。

他にも、第9区自治公民館副館長や第一老人クラブ副会長 ・大瀬川体育協会監事などを歴任され、地域にも大きな貢献 をなさいました畠山さんに謹んでご冥福を申し上げます。